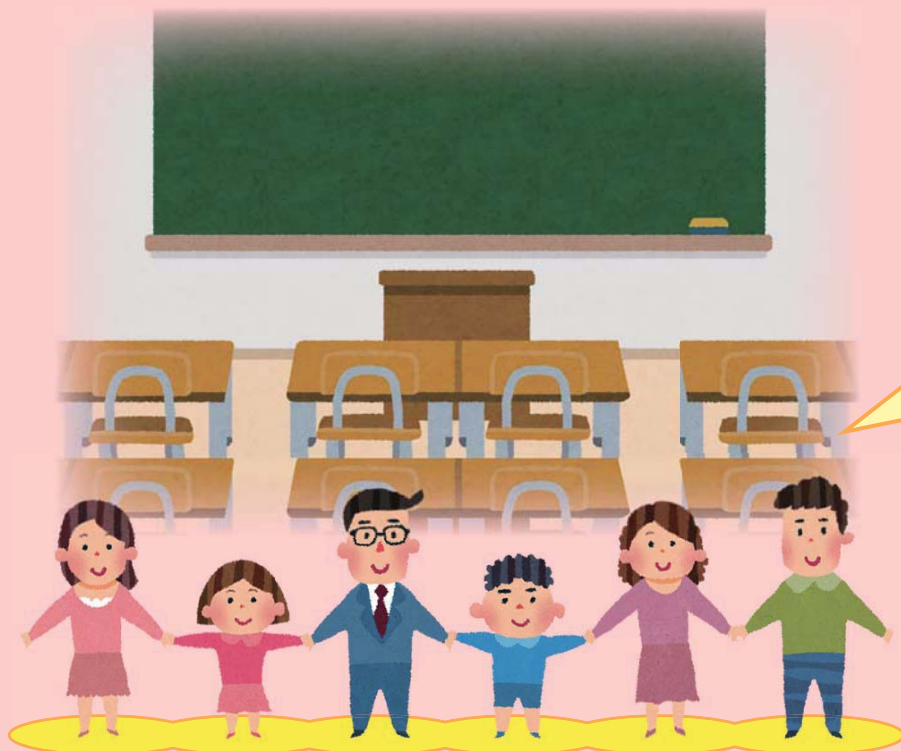




2017年3月 VOL.49

平和的に問題を解決し、
平和を構築する力をもった
子どもたちを育てたい




「いつでも」
「どこでも」
「誰でも」できる
平和教育のための実践

静岡県教職員組合立教育研究所
国際連帯と平和研究委員会

「国際連帯と平和研究委員会」では、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる平和教育をスローガンにかけ、『平和的に問題を解決し、平和を構築する力をもった子どもたちを育てる』ことをめざし、日ごろの教育活動の中でできる平和教育の授業実践を重ねました。

2016年度の研究のまとめとして、瀧 大輔所員（静岡市立東中学校校分会）の実践を紹介します。

合唱曲『消えた八月』から学ぶ平和学習

 教科:音楽・学活 学年:中学2年生 教材名:「消えた八月」

授業者としての思い

2016年5月27日、アメリカ合衆国のオバマ大統領が広島を訪問した。現職のアメリカ合衆国大統領として初めて広島を訪問し、慰霊碑に献花を行った。

原爆投下から71年を迎えた。被爆者の高齢化がすすみ、被爆体験を聞けなくなる日が近づき、原爆の投下、その惨状など、記憶の風化が危ぶまれる。私は音楽科の教員として、合唱を通して平和教育を考え、平和のバトンを引き継ぐ子どもたちを育てたいと思い、実践にとりくんだ。



私が音楽の授業を受け持つ学級は、学級担任が社会科の教員ということもあり、今年の校内合唱発表会において、「消えた八月」を合唱曲として歌わせたいという思いが膨らんだ。

実践にあたっては、学級担任の田中久穂先生とともにとりくんだ。



とりくみの実際

時期等	実践内容	生徒の学習活動
5月	<ul style="list-style-type: none">・オバマ大統領の広島訪問に合わせて、ヒロシマの歴史的意義、大統領訪問に関する新聞記事等を教室に掲示した。・学活、学級通信でもこのことを話題にした。	<ul style="list-style-type: none">・生徒の感想) 私は幼いころ原爆ドームに行ったことがあり、資料館にはポロポロになったお弁当箱がありました。忘れられません。・生徒の感想) 原爆投下のときに19歳だったおじいさんのインタビューがあり、…略…おじいさんは、「広島訪問はいいことですよ。終戦後70年オバマ大統領が亡くなった人に頭を下げる。それでいいじゃないですか。…」という話を聞いて、とても感動しました。・生徒の感想) こういうことに興味や意識がありませんでしたが考えるようになりました。

時期等	実践内容	生徒の学習活動
7月	<ul style="list-style-type: none"> この曲を通して、「平和に対する意識や思いを高めたい。」「誇りをもって歌いたい。」「長い時間をかけて、じっくりとりこんでいこう。」などと、時間をかけて生徒に思いを語った。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の感想) 先生の話聞いてチャレンジしてみたいと思うようになりました。 生徒の感想) 始めは暗い曲で、やだなあと感じていましたが、先生の話や手紙を読んでやってみようと思うようになりました。 <p>○生徒は、合唱の練習過程で8月6日のことを考えるようになっていった。</p> <p>○生徒の活動は、合唱＝音楽だけではない発展的な内容になっていった。</p>
9月～10月	<p>原爆についての授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞に関する内容や意味を考えさせた。 教室に「消えた八月」コーナーをつくり、啓発を図った。 考えを深めるために、「消えた八月」をどんなふうに歌うかを話し合わせた。 オバマ大統領と同じ折り紙を使って折り鶴をつくり、教室に掲示した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒から、「原爆のことについて授業をやってみよう」という提起があり、生徒による授業を行った。 歌詞の意味を班で考え、学級全体で話し合った。 この学習は、「消えた八月」という楽曲を通して、生徒たちが原爆や平和について、新たな意識や考えをもつようになった。 <p>【授業で使った資料等】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 原爆リトルボーイの実物大ポスター ② 原爆瓦(溶けた瓦) ③ 3年国語の教材 「挨拶—原爆の写真によせて」：石垣りん ④ 被爆者の語りを収めた「ヒロシマの証言」

実践についての話し合い

合唱のテクニックを指導するというのではなく、この楽曲を通して生徒たちに平和について考えさせ、生徒の思いを膨らめた上で、合唱を創っていく単元計画は、まさに「どこでも」できる平和教育ではないかと思います。

同じ中学校教員として「消えた八月」を合唱発表会の楽曲にしようという先生の思いはこの研究委員会の所員として素晴らしいチャレンジだと思います。



「合唱＝音楽だけでなく、平和教育の視点を加えたとき、生徒の学習は思いのほか発展的な内容になっていきました。」という先生の発言に、平和教育の具体を見る思いでした。

所員による平和教育の授業実践

研究委員会では、所員が実践した平和教育の授業について報告し合い、お互いに授業について研究協議を行いました。

理科、国語、学級活動とさまざまな教科・領域での実践が報告されます。まさに、「いつでも」「どこでも」「誰でも」できる平和教育について、授業実践を通して研究をすすめています。所員の実践は次のとおりです。



実践の教科・教材名等	所員名	所属分会
小6 理科: 生き物のくらしと環境 ～森林伐採をあなたはどのように思いますか。～	中田健太郎	東豆：熱海第一小
中3 学級活動: ゴールに向かうためにできることは何だろう	土屋 信治	富士：富士宮第一中
中2 音楽: 消えた八月 ～消えた八月から学ぶ平和学習～	瀧 大輔	静清：東中
小6 道徳: 礼儀は誰のため？	伊藤 秀男	志太：大井川南小
中1 体育: 誰もが意欲的にとりくむハードル走の授業	櫻井 剛	小笠：掛川北中
小4 学級活動: 上手に聴こう ～人間関係づくりのプログラムを使って～	平野 真理	磐周：東部小
小5 理科: 生物と環境 ～どうして環境問題は解決しないのか～	中西 啓介	浜松：上島小
中2 総合的な学習の時間: 今ある平和に気づき、共存していくために	杉浦 大千	湖西：新居中

組合員からの実践報告

2016年1月の研究所所報No153で「平和教育の授業実践募集」のお知らせをしました(52・53ページに掲載)。待望の報告第1号があり、紹介させていただきます。

報告者は、平野恵司さん(静岡市立東源台小分会)です。

小学校5年生、社会科の「日本の工業生産と世界のつながり」という授業を通して、平和教育のねらいである、『ものごとを多面的にとらえる力』を育てるという実践です。

平野恵司さんには、研究奨励をお渡ししました。平野さんの実践レポートは、教育研究所ホームページにアップしますのでご覧ください。

